

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第2号（通算第21号）
平成27年5月29日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

三条祭りに「シャギリ」で参加（5月15日、三条小）



「三条を愛し、誇りに思う教職員」

教育センター長 吉川 良一

日本の地方都市にとって、人口減少は避けられない未来です。その中で、持続可能な地域社会を構築するため、教育の果たす役割は非常に大きいと考えます。平成27年度「三条市学校教育プラン」では、目指す子ども像として「ふるさと三条を愛し、誇りに思う子ども」を掲げています。三条市を支えていく「ひと」を育てることは、今後の地域社会の発展に直接結びつきます。

各校では、三条を愛し、誇りに思う子どもを育てるために、小中一貫教育の視点から多くの活動を工夫され、「三条のよさ」を子どもたちに伝えたり、実感させたりしていく取組を進めていることと思います。ただ、自戒を込めて言うならば、三条市の子どもたちの教育に携わる私たち教職員が、三条のよさをどれだけ理解しているのだろうかという課題もあります。私は、三条市で生まれ、三条市の学校で学びました。今も三条市に住んでいます。しかし、三条のよさを十分に分かっていると言い切ることはできません。面識式で、國定市長は「これから先の三条の生活、三条に住まう人間以上に深く関心を持ち、高い志を持ち、次の三条を築く人たちに対する責任をより強く持っていただいて日々の教育活動に当たっていただきたい。」と転入職員にエールを送りました。「ふるさと三条を愛し、誇りに思う子ども」を育てるためには「三条を愛し、誇りに思う教職員」であることが前提と考えます。

私たち教職員が三条のよさを深く知り、実感する努力を続けていかなければならないと改めて感じています。「広報さんじょう」や三条市のホームページでは、多くのイベントや催し物についての情報が掲載されています。また、三条市教育センターでは、三条のよさを体験するため、三条学講座を開設しています。今年度の募集は締め切りましたが、いくつかの講座では定員に余裕がありますので、お問い合わせください。是非多くの皆様に参加していただき、三条のよさを知っていただければと思います。

第1回小中一貫教育基礎研修会を開催(4月23日)



転入・新採用教職員を対象にした標記の会に27校、114名の教職員が参加し、三条市が推進する①「幼児教育（幼保小連携を含む）」と②「小中一貫教育」について理解を深めました。

①について、子どもの育ちサポートセンターの本間玲子幼保小連携推進員が下記の3つの重点項目を中心に説明しました。

- 1 幼児教育内容の一層の充実
- 2 幼稚園・保育所（園）と小学校の連携の推進
- 3 家庭への支援の充実

②について、小池和秀指導主事が「市内全面実施から見えてきたもの」と題して、下記の6点について説明しました。

- 1 小中一貫教育へ向けての背景
- 2 導入までの経緯
- 3 三条市の小中一貫教育の特色
- 4 取組の実際
- 5 成果 ⇒ 不登校の減少、自己有用感の向上、社会性育成能力の向上、活動の質の高まり
- 6 「小中一貫教育全国サミット」開催構想

熱心に耳を傾ける参加者の姿に“三条市の教育施策を理解し三条っ子を全力で支援・指導しよう”という決意を感じました。

【受講者の声】※「参加してよかった」「どちらかといえば参加してよかった」の計：97.3%

- ・幼保小連携と小中連携と、長期にわたる一貫した教育の重要性を知ることができた。
- ・3年ぶりに三条に戻ってきました。三条市が目指す小中一貫教育の理念が市全体に浸透し、成果が上がっていることを感じることができました。がんばりたいと思います。
- ・小中一貫教育は子どもたちを変えるというより教師の意識を変える教育でないかと思った。固定観念を変えて、より分かる授業への転換と子どもたちを見る目の転換を問われていると感じた。
- ・成果の中で「教職員の意識」では、否定的な割合も増えている。その分析も必要ではないでしょうか。QIについても、他市との差が見られないのではないかと。

第1回マネジメント研修会を開催(5月20日)

推進リーダー、コーディネーター等34名の教職員が参加し、小杉指導主事の趣旨説明の後、8グループに分かれて課題別協議を行いました。以下、各グループの報告内容の一部を紹介します。

交流活動の充実 ●交流活動が日常的になったことで逆にあこがれ意識が低くなっているようだ。●ねらいを明確にした交流活動を！

小中合同研修の充実 ●情報交換を含めた同学年部の研修が大切である。●定期的な合同研修会が定着している。進め方に工夫を！

乗り入れ授業の充実 ●時間的なロス等、連携型での実施は厳しい。

●年度初めに乗り入れ授業の実施計画を決めると、授業者が覚悟を決めるので連携型でも実施できる。●小中学校講師の活用を！（曜日を決めて小学校で勤務する等）

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

●効果を上げるにはトピック的ではなく、定期的に行うことが大切。●「やればよい」から「質の高まり」を目指すことが重要。●乗り入れ授業は手段であるので、メリットを明確にして取り組みたい。

真剣で前向きな協議が続き、小中一貫教育を充実させたいという熱い思いを感じた研修会でした。



【受講者の声】※「自校の小中一貫教育の推進に役にたった」「どちらかといえば役にたった」の計：91.2%

- ・各中学校区の特色ある取組を一覧にしてもらってとても参考になりよかった。そのアイデアをヒントに新たな活動を増やすのではなく、現在ある活動をより充実させていきたいと思います。
- ・一体校での小中交流が大変参考になりました。リトルティーチャーや発表会への参加など、連携型でもできそうなアイデアをいただいた。自学区の実践に役立ってます。

さんじょう学びのマルシェ

「学びのマルシェ」とは？

買いたい物がそこにある「マルシェ」になぞらえて、自分の力に合った学習がそこにある学びの場、それが「学びのマルシェ」なのです。

勉強したい子
あつまれ！



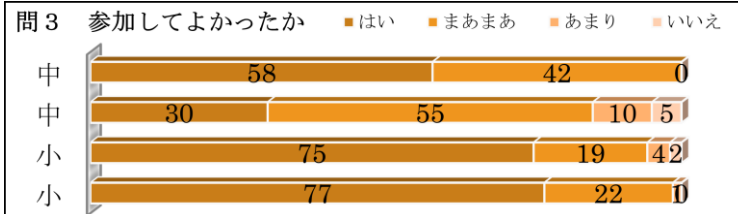
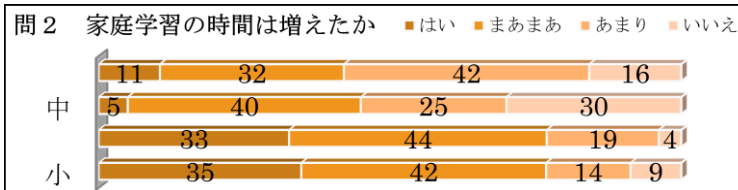
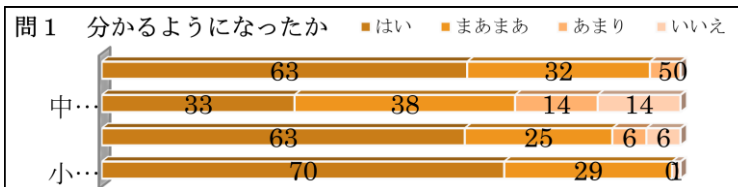
学びのマルシェでは、5つの教室を開講します。(5月から3月まで 土曜または日曜)

◆トップランナー教室、◆エキスパート教室、◆トライアル教室(新)、◆ステップアップ教室、◆プラスワン教室

2年目の今年度は「エキスパート教室」と「ステップアップ教室」の間に「トライアル教室」を新設しました。

～ 昨年度のステップアップ教室とプラスワン教室の受講の様子 ～

< 児童 アンケート結果 (12月実施) >



< 児童からの主なコメント >

- 算数が前より好きになった。
- 集中できるようになった。
- 学習することのおもしろさが分かった。
- 今まで分からなかったところが分かるようになって、うれしかった。
- いろいろなことを質問できるようになった。
- 勉強の時間が増えて、テストもよくなった。
- 分からないところが分かるとわくわくして楽しい。

< 生徒からの主なコメント >

- 参加して勉強時間が増えた。
- 解き方が分かるようになった。
- 学校のテストの点数が少し上がった。
- 難しい問題が出てても余り困らなくなった。
- 普段から勉強はあまりしなかったが、マルシェに行くようになって分かるものが増えたので、復習ができるようになった。
- 部活との両立が難しかった。

< 教員 OB・市民ボランティアの指導員の方々の主なコメント >

- ◇微力ではあるが子どもが「できた」とうれしそうにしている姿を見ることができてよかった。
- ◇私たちの声かけや解説で頑張ってくれる子どもたちがいるのはうれしい。
- ◇学力の低い子にどうしたらいいのか戸惑いもあったが、少しでも力になれた喜びを感じている。
- ◇とてもよい時間をいただけていると思っている。子どもたちとよい距離で接することができ、少しずつだが力になってあげられている充実感が心地よい。
- ◇生活にはりが出たように思い、心から感謝している。
- ◇来年から教員となる。このような子どもたちとふれ合う機会をいただけてとてもよかった。
- ◇現場を離れているので各校の5、6年生の子どもたちと接する楽しみがあった。
- ◇私自身の学びにもなるし、児童に接することは物事に対する新しい見方や驚きを与えてくれる。
- ◇生徒たちと接することは楽しみ。教えることで少しでも理解の助けになればと思っている。
- ◇子どもたちのやる気に、私も協力したい気持ちが強くなった。たくさんの「分かった」のために尽力したい。



学校では授業はもちろんのこと、昼休みや放課後等を使って補充学習に努めて「子どもたちの分かる」に役立てていただいております。その先生方の力になれないかと始まったのがこの『さんじょう学びのマルシェ』です。「勉強が分かるようになりたい。」「もっと勉強したい。」そんな子どもたちとそれを支える先生方の力になります。

第1回小中合同研修会を開催（4月30日） ～第二中学校区～



標記の会が一ノ木戸小学校「ふれあいルーム」で開催されました。開会の挨拶で志賀推進協議会会長が「一緒に校舎になって2年半、小学生と中学生が自然に交流する姿が見られるようになってきた。10月に開催される全国サミットでは小中一貫教育の成果を子どもの姿で示したい。」と抱負を述べました。

続いて阿部推進リーダーが昨年度までの取組について説明しました。「雨が降って心配された小学校の運動会。前日にグラウンド整備をする野球部の生徒」「市内大会に行く直前の野球部の生徒に、大きな声でエールを送る小学生」「中学生が小学生の授業補助を行う『リトルティーチャー』で、自己有用感を高めた生徒の姿」など、一体校の利点を生かして日常生活の中で交流する姿を紹介しました。また、定期的な乗り入れ授業の実施、小中合同研修会等について成果と課題を述べました。

さらに、コーディネーターから、「推進組織」「推進計画」「チェックリスト」「各教科の指導の構想」「全国サミット in 三条」の5点について説明がありました。2点紹介します。

- ☆ “豊かな関わりの中で自分を見つめ、新たな自分との出会いを続ける子ども”を育成するために、「まなび」「こころ」「からだ」「ちいき」の4つの力を9年間で育むことを大切にしている。4つの力をそれぞれ「前期」「中期」「後期」で具体的に示している。後期に明記した姿が義務教育9年を終えた第二中学校区の子どもの姿とし、そこを目指して小中一貫教育を推進する。
- ☆ 「授業改善チェックリスト」の活用。授業後の振り返りや授業参観の視点として活用し、授業改善に役立てている。裏面の「ノート指導モデル&チェックリスト」と併せて活用している。

「全国サミット in 三条」開催に向けて ～その3～

「全国サミット in 三条」開催まで5か月を切りました。現時点での開催内容をお知らせします。

1 1日目（10月22日）の授業公開校区、公開授業、指導者一覧

授業公開校区 (支援校区)	授業公開のテーマ		
	公開授業	指導者	担当指導主事
第一中学校区 (大崎、下田)	ふるさと三条に誇りをもち、個性を輝かすことのできる子どもの育成(仮)		
	国語、数学、音楽、家庭など12授業	雲尾 周(新潟大学准教授)	小池、池田
第二中学校区 (栄)	豊かな関わりの中で自分を見つめ、新たな自分との出会いを続ける子どもの育成		
	総合、数学、外国語活動など8授業	藤田晃之(筑波大学教授)	平野
第三中学校区 (本成寺)	ふるさと三条を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成 ～憧れ感・自己有用感を、地域とともに育むキャリア教育の実践～		
	英語、総合(職場体験発表)など6授業	天笠 茂(千葉大学教授)	小杉
大島中学校区 (第四)	小規模校における人間関係づくりを中核とした取組 ～学び合う授業・協働する教職員・つながる地域～		
	算数、パネルディスカッションなど14授業	小柳和喜雄(奈良教育大学教授)	丸山

2 2日目（10月23日）の日程【会場：嵐南小】 ※市内30校は臨時休業日

- ①開会行事(10:00～10:30) 挨拶：國定市長、主催者挨拶：教育長、来賓挨拶：文科省、県教育長
- ②基調講演(10:30～11:30) 講師：武藤久慶(文科省初等中等教育局教育制度改革室室長補佐)
- ③プレゼンテーション(11:40～12:10)「三条市の小中一貫教育」及び「文科省委託研究」の取組と成果
- ④ポスターセッション(12:30～13:10) 市内9中学校区のポスターセッション実施
- ⑤シンポジウム(13:30～15:30) コーディネーター：雲尾 周 パネリスト：武藤久慶、天笠 茂、藤田晃之、小柳和喜雄、高橋邦彦(三条市立嵐南小学校長)